○あだんトつるあだんニ就テ　（木村陽二郎）

(Yojiro Kimura: *Pandanus* et *Freycinetia* in Ryûkyû.)

昨秋、古澤潔夫氏ト奄美大島、沖繩本島又特ニ西表島(イリオモテ)ヲ歩イタ際[1]興味ヲ引カレタあだんトつるあだんニ就テ少シク述ベタイ。本文ヲ草スルニ當ツテハ八重山營林署ノ方々始メ西表島ノ方々、特ニ急ガシイ職務ノ暇ヲミテハ御案內下サリ且ツイロイロト教ヘテ載イタ西表小學校ノ多和田眞淳氏ニ負フ處甚ダ多ク厚ク御禮申シ上ゲル次第デアル。

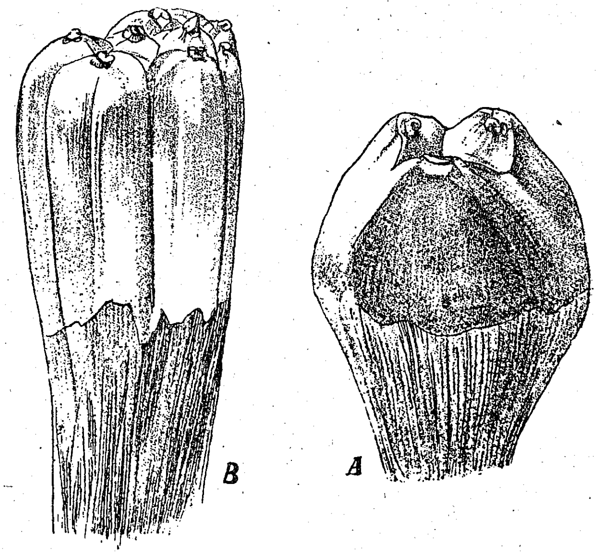
あだんノ名

宮良當壯氏ノ「あだんニ關スル考察」(岩波「文學」第一卷第三號昭和8年6月)ヲ見ルニあだんノ沖繩各島ノ方言トシテあだぬ、あだに、あんだに、あづぁに、あだん、あらに、あだぬ、あだなぎ、あだーに、あらぎ、んざー、あだんぶらーぎ、あだなぎぎ、あだんぎ、あだなし、あだね等ヲ擧ゲテオラレル。氏ハ あだん→あだに→あだぎ→あざぎ ト語源ヲ溯ラレテキル、八重山語デハ刺ヲ あざ トイフノデコノ說ハモツトモノ事デアル。あだんハマレー語ノパンダン (Pandan) カラ出タトスル說モアルサウデアルガ P ト n ガヌケレバナルホドあだん (Adan) トナルケレドモコレハ思ヒ付キカモシレナイ。

あだんトたこのき

宮良當壯氏ハ日本植物圖鑑、日本家庭大百科事彙、日本百科大辭典、言海等ノ記載ヲ引用サレ結局あだんハたこのきノ異名ニ過ギズ、兩者ハ同ジモノトサレテキル。

あだんトたこのきトハ屬モ節モ同ジデ *Pandanus* sect. *Keurea* ニ屬スルガ種ヲ異ニスルコトニ植物學者ハ誰モ異論ハナイノデアルガ土地ノ人達間デハあだんハたこのきト同ジトイフ考ヘガ擴ガツテシマツタ。コレニハ色々譯モアラウガたこのきノ名ガハイカラナノト都會デハ植木トシテ たこのき ガ栽植サレテ名



第1圖　A たこのき (*Pandanus boninensis* Warburg)　B あだん (*Pandanus tectorius* Warburg) ノ果實 (分果) (Warburg 氏ノ圖ヨリ)

1) 本採集旅行ハ一部、日本學術振興會ノ補助ニ依ツタモノデアル、記シテ感謝ノ意ヲ表スル。

ガ知レタコト＝モ依ルシ、又臺灣產ノあだん卽チたいわんあだんトモイフベキモノヲ現在しまたこのきト呼ブタメモアルダラウ。多クノ圖鑑＝たこのきガアツテあだんヲ省ク不公平＝モヨルシ、更＝たこのきノ名ガ歌トナツテ擴ガツタリシタコト＝モ依ルダラウ。然シ昔ナガラノあだんト呼ビたこのきト區別スルコトガ必要ナノデ、區別ノ要領ヲ述ル、第1圖ヲ見ラレタイ。

たこのきハ小笠原諸島ノ特產デ各果ノ柱頭ハ眞中＝集マリ3個、時＝4個デ上面カラ側面ヘノ傾斜ハ緩カデアルガ、あだんノ各果ノ柱頭ハ集マラズ＝5–6個時＝ハ更＝數多ク、上面カラ側面ヘノ傾斜ハ急デアル。葉ノ刺ハたこのきノ方ガ細カイ。

あだんノ效用

幹ハ小屋ヲ作ル柱＝ナル。薪＝モ炭＝モナル、挿花筒ヤ有絃樂器ノ絃胴＝モ出來ル。根デ煙管ヲ製スルコトモアル。氣根ハ皮ヲ剝ギ乾シテ繩トスル、强クテ水＝モ耐ヘル、又草鞋モ出來ル。

葉ハ乾シテ莚、草履、煙草入、提籠、玩具＝作リ、漂白シテ帽子ヲ作リ又小屋ヲ葺キ或ハ薪トスル。あだんノ種名形容詞 *tectorius* ハ「屋根ヲ葺ク＝用ヒル」ノ意味デアル。歌＝、

　ワシタ山原(ヤンバル)ノ阿且葉(アダンバ)ノムシロ

　　敷カバ居ラミシヤウレ　首里ノ主ノ前[1)]

トイフノガアル。葉邊ノ基部白化シタ所ハ煎服シテ解熱藥トナル[2)]。

芽ノ心ハトツテ料理＝用ヒ果實ハ甘イノデ食ス、盆祭＝ハ先祖ノ靈前＝供ヘル。

柳田國男氏ノ「海南小記」＝依レバ奄美大島ノ名瀨ノ作大能[3)]トイフ處デ飢饉ノ折、苺(イチュビ)（ほうろくいちご其他ナラン）ヤあだんヲ食シソレサヘ無クナリ數十人ノモノガあだんのき＝首ヲククツテ死ンダ、ソレカラハ亡靈ガ出テ

　イチユビ山　ノボテ　　　イチユビ　持チクレチヨ

　アダン山　ノボテ　　　アダン　持チクレチヨ

ト歌フ傳說ガアルトイフ。

あだん＝ハ黃色＝熟スモノト赤ク熟スモノトガアルガ前者ノ方ガ甘クテウマイト多和田氏ヨリ聽イタ。

海濱瘠土＝ヨク成長スルノデ颶風ガ名物ノ沖繩縣デハ防風林トシテノ效用ハ忘レルコトガ出來ナイ。

あだんノ學名

あだんノ學名＝ *Pandanus tectorius* PARKINSON ヲ採ルカ *Pandanus odoratissimus* L. fil. ヲ用フルカノ決定ハ難カシイ U. MARTELLI 氏ノ論文 "*Pandanus odoratissimus*" o "*Pandanus tectorius*" (Nuovo Giorn. Bot. Italiana, xxvi, 328–337, 1929) ヲ見ル＝彼

1) 金城三郎氏著「沖繩產重要植物」＝依ル。

2) 多和田眞淳氏著「沖繩藥用植物藥效」＝ヨル。

3) 奄美大島＝ハ作大能トイフトコロハナイ。名瀨ノ近ク＝作大熊(サダイクマ)トイフ處ガアツテ筆者ハ偶然通ツタガ海邊デアルガあだんノアル處デハナイ。恐ラクコレハ喜界島ノ作手久(サデク)デアラウ。飢饉ノ話＝ハ作手久ノ方ガ似ツカハシイ。

ハ *P. odoratissimus* ヲ採リ *P. tectorius* ハ恐ラクハ *P. odoratissimus* var. *tectorius* ナラントシテキルケレド MERRILL 氏モ記シタ如クナゼ早ク發表セラレタ *P. tectorius* ヲ採リ *P. tectorius* var. *odoratissimus* トシナイカ 筆者ニモ了解出來ナイ。 *P. tectorius* PARKINSON ハ始メタイチ島ノ植物ニヨリ *P. tectorius* SOLANDER トシテ記載ト共ニ記サレタガ未發表ニ終リ *P. tectorius* PARKINSON トシテ 1773 年發表サレタ。*P. odoratissimus* L. fil. ハセイロン島デ THUNBERG 氏ノ採集品ニ名付ケラレ1793年發表サレタ。A. ENGLER 氏ノ Pflanzenreich ニあだん科 (Pandanaceae) ヲ擔當シタ O. WARBURG 氏ハ *P. tectorius* ト *P. odoratissimus* ヲ同一種トシテ古イ發表ノ *P. tectorius* ヲ正名トシテ採用シテオラレル。彼ニ依レバソノ分布ハポリネシア、印度、マレー、フイリッピン、南支、熱帶オーストラリア、更ニマダカスカルニ近イマスカレーン群島、セーシエル群島ニモ產シ、生籬トシテ印度內地ニ、編物用及ヨイ香ノタメニマレー諸島ニ、ヨイ香ノタメアラビヤ、マーシヤル群島ニ栽培セラレ、コノ屬中世界デ最モ分布ガ廣イ種デアルトイフ。筆者ハ彼ノ意見ニ從ヒ種名トシテ *P. tectorius* ヲ採用スル。

あだんトしまたこのき

WARBURG 氏ハコノ種 *P. tectorius* ニハ色々ノ形ヲ含ミ、イマスグコレヲイチイチ記スコトガ出來ヌ故分布限界ノ二三ノ形ト最モ重要ナ栽培變種ノミヲ記ストシテ 6 變種ヲ擧ゲテオラレル。コレニヨレバあだんハ *P. tectorius* var. *liukiuensis* WARBURG デアリ臺灣ニ產スルしまたこのき (林投) ハ var. *sinensis* WARBURG ニ當ルノデ筆者ハヤハリコレヲ採用シタイ。しまたこのきノ美シイ寫眞及ビ圖ハ金平博士ノ臺灣樹木誌ニ出テキル故ソレヲ參照セラレタイ。

WARBURG 氏ハしまたこのき (var. *sinensis*) ハ種ノ典型的ナ形 (typical form) トハ葉ハヨリ小形、先端ガヨリ長ク尖ルコト邊緣ノ刺ガヨリ大キク、分果 (Phalanx, コノ科デハ一ツノ花ノ心皮ノ總合ヲ呼ブ) ハヨリ少ナク 5–6 室デアリ又あだん var. *liukiuensis* ハしまたこのきニ似ルガ葉ハ下部ノミニヨリ短イ刺ヲ持ツトイフ。金平博士ニ依レバしまたこのきハあだんニ比シ心皮ノ先端ガ銳尖デアル故區別ガ出來ルト記シテオラレル。コレ等ノ特徵ハモツトモデアルガあだんノ葉ハ通常上部ニマデモ刺ヲ持ツテキル、シカシ臺灣產ノモノヨリ刺ガ小サイヤウデアル。

とげなしあだんトソノ效用 (第 2 圖)

多和田眞淳氏ノ御案內デ一日船(サバニ)ヲ傭ツテ船浮(フナウキ)トイフ處ニ行ツタ。ソコニ刺ノナイあだんガ野生シテキルカラデアル。株ハ大キクヤヽ地ニ匐シ一本ト思ハレタ。コレニハ葉ニ刺ガ全然無イトイツテヨイ葉ニ依ツテハ僅カニ基部ニ刺ガ三四アルモノガアル。コレハ一新變種ト思ハレコレニとげなしあだんノ名ヲ與ヘタガ WARBURG 氏ノ書ニ *P. tectorius* var. *laevis* (KUNTH) WARBURG トアルノニ似テキル。WARBURG氏ノ記載ニヨルト葉ハヤヽ白味ヲ帶ビ (subglauca), 長サ 2 m、幅 5–6 cm、邊緣及ビ中肋ニ刺ナク先端甚ダ長ク銳尖ス雄花部ノ苞ハ甚ダ香ヨイ、下部ハ白味ヲ帶ビル、雌花序ト果實ハ未ダ知ラヌトイフ。西表產ノ



第 2 圖　上 多和田眞淳氏トとげなしあだん（Mr. S. Tawada et *P. tectorius* var. *laevis*）.
下 とげなしあだん（*P. tectorius* var. *laevis*）葉ノ基部ニ三四ノ刺ヲ見得ル.（筆者撮影）

モノハ筆者ハ葉ノミシカ見ズ又多和田氏モ花及ビ果實ヲ見テオラレナイガ葉ノ記載ハヨク合致スル。多和田氏ニヨレバ沖永良部島ニモアルトイフ。WARBURG 氏ノイフ植物ハジャバニアリ雄花序ノ苞ノ香ヨイコトデ栽培サレルト云フ。KOORDES 氏著ノ Excursionsflora von Java ニ依レバ普通ノ *P. tectorius* ヲ土地デ Pandan トイヒコノ刺ノナイノヲ Pandan bebaoe トイフラシイ、ヤハリ果實ヲ見ナイトイフ。サテ西表島ノとげなしあだんガジャバソノ他ノ栽培セラレタ土地ヨリ來タカ(フイリッピンノフロラヲ見タガ記シテナイ)トイフニコレモアヤシイ。筆者ガ考ヘルノニジャバ方面デモ又西表島デモ刺ノナイモノガ刺ノアルモノカラ突然變異デ出來タノデナイカト想像スル。別ニジャバノモノト分ケル理由ガナイノデとげなしあだんノ學名ニハ *P. tectorius* var. *laevis* WARBURG ヲ用ヒタイ。あだんノ葉ヲ利用スルニハ刺ガ邪魔デアルカラ板ニ四本ノ釘ヲ打附ケタ棘落シデ兩縁及ビ中肋ノ棘ヲ拂ヒ落スノデアル故コノとげなしあだんヲ用フレバソノ手間ガハブケル。故ニ海岸砂地ノ他ニ利用出來ヌ土地ニあだんノ代リニとげなしあだんヲウヱ國策ニソツテ大イニとげなしあだんノ纖維ヲ利用スベキデアル。實ハナラナクテモ挿木デドシドシ増ヤスコトガ出來ルカラあだんヲ減ラシテモとげなしあだんヲ植エタ方ガヨイ L. BURBANG 氏ハしやぼてんヨリとげなししやぼてんヲ苦心シテ育テタ。天然ニ既ニとげなしあだんガアルノハ喜バシイコトデアル。

かねあだん (第3圖 A–B 及第4圖)

西表島ニかにあだんぬきトイフモノガアル、コレハかねあだんのき(鐵あだんの木)ノ意デ莖ヤ枝ガ普通ノあだんヨリ硬ク又分果同志ガ互ニ密ニ着キ普通ノあだんノ如ク判然トシナイ、反ツテ各心皮ノ頭ノ區劃判然トシテキル。第三圖ヲ見ラレレバコノ關係ガハツキリスル圖 B, D ハ同程度ニ未熟ノモノデアルガ熟シテモコノ關係ハ變ラナイ。葉ハ廣ク長イヤウデアル。筆者ハコレニかねあだん (*Pandanus tectorius* WARBURG var. *ferreus* Y. KIMURA) ノ名ヲ與ヘル。かねあだんハ筆者ノミルトコロデハ 7–8 ノ柱頭ヲモチあだんヨリ多室デアルヤウダガ勿論あだんニモ 7–8 室ノモノモアル。柱頭ハかねあだんノ方ガ幅廣イヤウデアル。コノかねあだんトあだんトニハヤヽ中間形ト思ハレルモノモ多イノデアルガ極端ナ形デハ實ニハツキリシテキルノデ變種トシテ取扱フノガ妥當ト考ヘル。

つるあだん

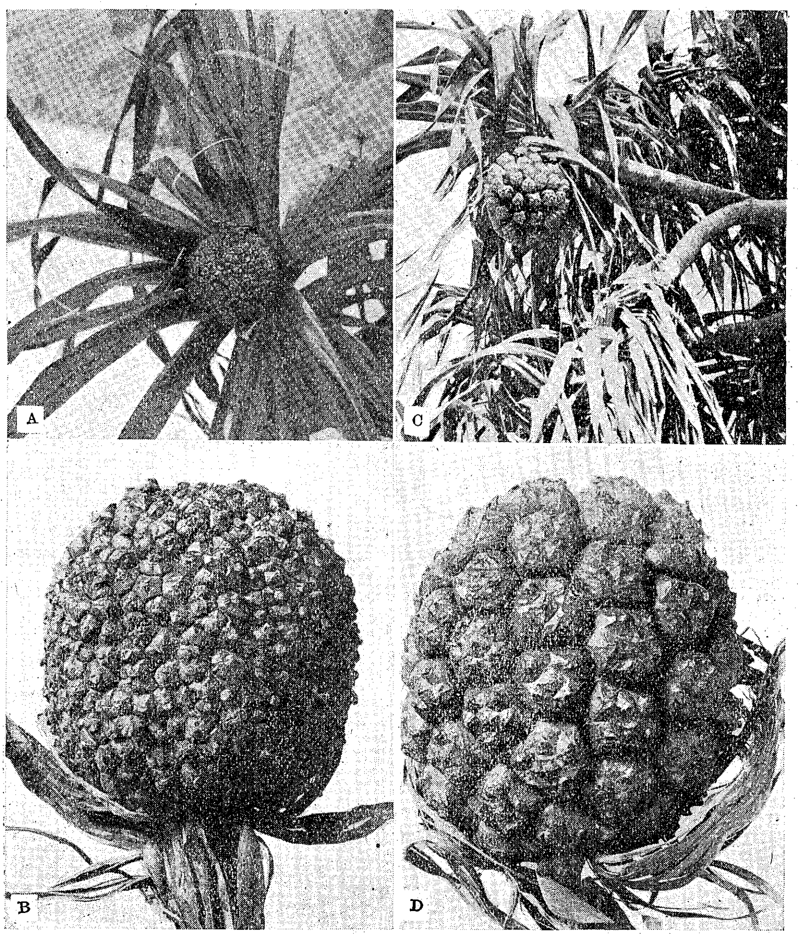
沖繩本島ト異ツテ八重山ナル石垣島及ビ西表島デハ纒繞植物タルつるあだん及ビたうつるもどき (*Flagellaria indica* L.) ガ盛ニ繁ツテキテ景觀ニスコブル影響ヲ與ヘテキル。

八重山ノ民謠[1]ニ

やまざみぬ ふしぃだぎ	山あだんノ節丈
ふしぃかたさおーりみり	節堅(密)サ參見レ
いちゃんおーりよかたら	何時モ參レヨ語ラ

卽チ「つるあだんノ節ノゴト繁々ト參レヨ何時迄モ語ラハム」ト歌ハレテキル。花ノ咲ク頃

1) 宮良當壯氏「あだんニ關スル考察」ヨリ。



第 3 圖 A-B かねあだん (*Pandanus tectorius* var. *ferreus*)
A. 未熟ノ集合果，枝ヲトツテ砂上デ撮ス　B. 未熟ノ集合果（標品）
C-D あだん (*P. tectorius* var. *liukiuensis*)
C. 熟セル集合果，沖繩本島＝於ケル生態寫眞　D. 未熟ノ集合果（標品）
（筆者撮影）

ハ森中香シクアマリ近クデハ刺戟ガ過ギテ厭デアルトノ話モ聞イタ。つるあだんハ紅頭嶼、火燒島及ビ臺灣ノ基隆及ビ八重山＝産スルガ金平博士＝依レバ恒春地方ノ土人ハ頭髪ノ飾トナストノコトデアル故、恒春地方＝モ産スルト見エル。要スル＝つるあだんノ分布ハたうつるもどきノ分布ト同樣フイリッピン方面カラノ黑潮＝ヨル影響ヲ示シテヰル。 つるあだんノ學名ハ *Freycinetia formosana* Hemsley デアルガ、正宗嚴敬氏ハ基隆ノモノハ雄花苞ガ暗紅色デアルノ＝西表産ノモノハ黄色ナルタメコレヲ變種トサレいりおもてつるあ

だん (*Freycinetia formosana* var. *iriomotensis* MASAMUNE) トサレタ。

其後正宗氏ハ (臺灣博物學會會報、29卷、218頁、1939年) 基隆産ノつるあだんハ「黃色ノ物ガ普通デ暗紅色ノハ稀デアル (或ハ花ノ新舊ニヨリ變化スルカモシレナイガ) 新ラシイモノデモ紅色ト見ラレル物ガアルノデ二ツノ型ガアルノデハナイカト想像スル」ト述ベラレテキル。然ルニ西表島ニ於テモ苞ノ暗紅色ノモノガアリ土地ノ人ハつるあだんヲやんだぬトイヒ苞ノ赤イつるあだんヲあかやんだぬト呼ブ事ニ依ツテモワカルヤウニ苞ノ赤イ方ガ少ナイノデアツテソノ關係ハ基隆ニ於ケルト全ク異ラナイ。故ニ苞ノ色ノミニテ區別スルトキハ品種程度ノ差ト思ハレル。つるあだんノ基準標品ハ基隆デ OLDHAM 氏ノ採ツタモノデアリ記載ニハ苞ハ有色 (coloratus) トアル故ニ苞ノ暗紅色ノモノデアツタラウ。故ニ薄黃色ノモノガ普通デアルガ命名上ニハ之ヲ forma *iriomotensis* トシ暗紅色ノモノヲ forma *typica* トシナケレバナラヌ。品種マデワケテ呼ブトキハ前者ヲいりおもてつるあだん後者ヲあかつるあだんト呼ベバヨイデアラウ。

つるあだんノ苞ハ食スト甘クテウマイガ後味ハ惡クニガイトイフ、西表島デハつるあだんノ氣根ノ多イモノヲけやんだぬトイフガ之ハ後ノ研究ニ待チタイ。

ひめつるあだん (第4圖)

西表島ノ干立(ホシタテ)ニ變ツタつるあだんノ一種ガアル。以前ヨリソレヲ氣ニシテオラレタ多和田眞淳氏ノ御案内ニテコレヲ親シク採集スルコトガ出來タ。コレニひめつるあだん (*Frey-*



第4圖 左 ひめつるあだん (*Freycinetia Tawadana*)
右 かねあだん (*Pandanus tectorius* var. *ferreus*) ノ生態寫眞 (筆者撮影)

cinetia Tawadana Y. KIMURA) ノ名ヲ與ヘル。學名ハ多和田眞淳氏ヲ記念シタモノデアル。つるあだんハ他木=纒ツテ葉ハ軸ヲ中心トシテ四方=擴ガルノ=對シ ひめつるあだんハヤハリ蔓=ナルガ他ノ木ヤ灌木ヲ覆ヒ葉ノ出方ハつるあだんノヤウデモ基デネジレテ一平面=並ブ。葉ハつるあだんヨリズツト小サクテ 15 cm 許、裏面中筋=刺ノアルノハ同ジダガつるあだんノヤウ=邊緣ハ下部ノミ刺ガアルノデナク中央部ヲ除イテ上部=モ下部=モ小刺ガアル。つるあだんデハ兩面艷ガアルケレドモコレデハ表面モ艷少ク裏面ハ艷ガナイ。ひめつるあだんハヤヽ色ウスク裏面ハ殆ド一色デアルガつるあだんノ葉ノ裏面ハ黃綠色=綠ノ條ガ入ツテキル。ひめつるあだんノ葉ノ小脈ハ主脈ヲ中心トシテ兩側=9條アルガつるあだんデハ30條ハアル。葉ハつるあだんデハ下部デアマリ狹マラズ=切レテ莖=着クシ ひめつるあだんデハ一タン細マリ更=スコシ擴ガツテ莖=着ク。ひめつるあだんノ花モ果モ未ダ全ク知ラレテキナイガつるあだんトハ全然別種デアルコトハ明カデアル。本種ハ干立ノ一ケ處シカナイガ西表全島ヲ更=調査スルト他=モ知ラレルカモ知レナイ。

紅頭嶼=こうとうつるあだん *Freycinatia batanensis* MARTELLI [Webbia, III, 309 (1910)] ガアルト佐々木舜一氏ハ記シテオラレル〔臺灣博物學會會報, XXVI, 134 (1936)〕。コノ植物ヲ研究スル機會ガ與ヘラレレバひめつるあだんトノ關係ヲ論ジタイト思フ。

筆者ノ誤、見落シ=就テハ大方ノ叱聲ヲ乞ヒ歐文リストヲ加ヘテコノ稿ヲ終ル。

Pandanus et Freycinetia in Ryukyu (Loochoo).

1) **Pandanus tectorius** (SOLANDER, Prim. fl. ins. pacif. ined. 350) PARKINSON, Journ. of a Voy. South Sea in H. M. S. Endeavour, 46 (1773); WARBURG, Pandan. in Pflanzenreich, IV–9, 46 (1900); HAYATA. Icon. Fl. Formos. VIII, 132 (1919); MERRIL in Trans. Amer. Phil. Soc. new ser. XXIV–2, 268 (1935).

Pandanus odoratissimus L. fil., Suppl. Pl. 424 (1781); MATSUMURA et HAYATA, Enum. Pl. Formos. 455 (1906); KANEHIRA, Formos. Trees, 631 (1917); MASAMUNE in MASAMUNE, Short Fl. Formosa, 227 (1936).

1a) var. **liukiuensis** WARBURG, l. c. 48 (1900).

P. odoratissimus var. *liukiuensis* (WARBURG) KANEHIRA, Formos. Trees rev. ed., 63 (1936).

Nom. Jap. *Adan.*

Hab. Ryûkyû; Ins. Amami-Ôsima, Ins. Okinawa, Ins. Iriomote, etc.

1b) var. **laevis** (KUNTH) WARBURG, l. c. 48 (1900).

Nom. Jap. *Togenasi-Adan* (nov.).

Hab. Nova ad Imperium Japonicum. Ryûkyû, Ins. Iriomote Hunauki (Y. KIMURA I. HURUSAWA et S. TAWADA 12 Oct. 1940).

1c) var. **ferreus** Y. KIMURA var. nov.

var. *liukiuense* similis sed caulibus firmioribus, drupis inter se fere ad summo non liberis, 7–8-locularibus.

Nom. Jap. *Kane-adan* (nov.), *Kani-adan* (nom. vern.).

Hab. Ryûkyû, Ins. Iriomote, circa Sonai (Y. KIMURA, I. HURUSAWA et S. TAWADA 14 Oct. 1940—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.).

2) **Freycinetia formosana** HEMSLEY in Kew Bull. 166 (1896); WARBURG, Pandan. in Pflanzenreich, IV–9, 41 (1900); KANEHIRA, Formos. Trees, rev. ed. 63, fig. 23 (1936); MASAMUNE in MASAMUNE, Short Fl. Formosa, 227 (1936).

Nom. Jap. *Turuadan.*

Hab. Taiwan, Kiirun et Takao. Ins. Kôtôsyo. Ins. Kasyôtô. Ryûkyû. Ins. Iriomote, Ins. Isigaki.

2a) forma **typica** Y. KIMURA, nom. nov.

Bracteae rubrae.

Nom. Jap. *Aka-turuadan* (nov.); *Aka-yandanu* (nom. vern.).

Hab. Taiwan, Kiirun! Ryûkyû, Ins. Iriomote!

2b) forma **iriomotensis** (MASAMUNE) Y. KIMURA, stat. nov.

Freycinetia formosana var. *iriomotensis* MASAMUNE in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. XXIV, 279 (1934).

Bracteae luteae. Forma vulgaris.

Nom. Jap. *Iriomote-turuadan. Yandanu* (nom. vern.).

Hab. Taiwan, Kiirun! Ryûkyû, Ins. Iriomote!

3) **Freycinetia Tawadana** Y. KIMURA, sp. nov.

Ramuli 8 (6–10) mm crassi tereti laeves basi ad nodos saepe radicantes, internodos 1–2 cm longis; rami novelli foliosissimi. Folia herbacea viridia (CC* vert 327) non nitida, infra opaca (CC* vert 313), lanceolato-linearia ±15 cm longa 12–17 mm lata, versus apicem longe attenuato-acuta ad basin angusta et 1 cm lata subamplexicaulia utrinque longitudinaliter 9-venoso-striata venis in vivo inconspicuis margine praeter partim mediam remote et minute serrato-denticulatis; costa media in parte superiore remote et minute spinulosa. Inflorescentiae et syncarpia ignota.

Nom. Jap. *Hime-turuadan* (nov.).

Hab. Ryûkyû. Ins. Iriomote. Hositate (Y. KIMURA, I. HURUSAWA et S. TAWADA 14 Oct. 1940—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.).

(東京帝國大學理學部植物學教室)

* KLINCKSIECK et VALETTE: Code des couleurs (1908).